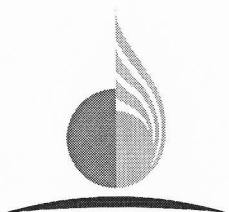


平成十七年度～三十四年度

立正安国・お題目結縁運動

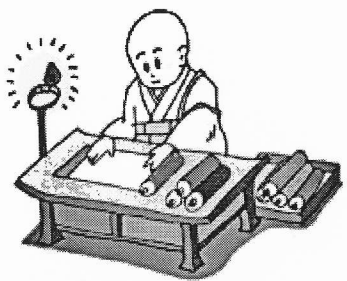
「いのちに合掌」



日蓮宗北海道北部教化センター

私そしたちのお祖師さま

立正安国論と松葉ヶ谷法難



立正安国論(国宝)

中山法華経寺蔵

文応元年(一二六〇)七月十六日 三十九歳

鎌倉時代には大火・大風・洪水・大地震や飢饉・疫病などの災害が連続して起きていました。日蓮聖人はこの惨状を嘆き悲しみ、「社会全体が間違った信仰を捨てて法華経を信仰(立正)することによって、災害や争いのない平和な仏の国土(安国)にすることが出来る」として立正安国論という書物を著し、国を治める幕府への諫暁(諫め諭す事)の為、当時の権力者であった前執権北条時頼へと奏進(申し上げる事)されました。

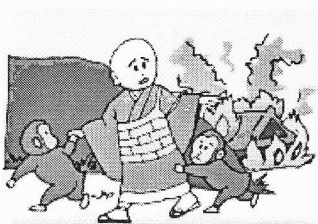
日蓮聖人は数々の迫害に遭われても、決して信仰を捨てることなく「正法を立てて国を安んずる」という立正安国を実現し、お題目・法華経の信仰によって、すべての人々が安心して暮らせる平和な世界を目指しておられました。

今年(平成二十一年)は日蓮聖人が鎌倉幕府へ立正安国論を奏進されてより七百五十年の大きな節目の年に当たります。

松葉ヶ谷法難

同年 八月二十七日

立正安国論の中で間違った信仰として激しく批判された念仏の信者たちは、鎌倉の松葉ヶ谷にあった日蓮聖人の草庵に大勢で押し寄せ襲い掛かり、焼打ちにしようとした。燃え盛る炎から逃げようとした日蓮聖人の前に、白い猿が現れて逃げ道を示し、そのおかげで難を逃れることができた、
と言いつた。



お題目の縁をいただく私たち一人ひとりが仏の子として目覚め、「立正安国」の実現に向けて信行に励み、その輪を広めていかなければなりません。日々の信仰を大切にしてお会式等のご聖日には菩提寺へとお参りいたしましょう。